

第3回 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 議事要旨

- 1 開催日時：平成28年3月24日（木）午後2時00分～午後4時00分
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 1階 会議室
- 3 出席者：[会長] 玉置農場長
[専門部会委員] 針谷委員、佐倉委員、藤原委員、三谷委員、山崎委員、
市川委員、杉山委員、福井委員、鈴木委員、向坂委員、
(欠席) 梶委員、梅澤委員、田村委員、草野委員
(代理) 安藤委員（梶委員の代理）
[事務局] 農産物等研究専門部会 農地課 倉課長、古山係長
地域活性化検討専門部会 企画課 井上課長、白石係長
里地里山保全利活用専門部会 みどりの協働推進課 蛭田課長
コンサルタント（株）URリンケージ 遠藤副課長、古山主任

4 議 事：

(1) 今年度の取り組みに関する報告

《各専門部会の部会長からの補足説明等》

①農産物等研究専門部会

- ・農産物等研究専門部会では、今年度は実施方針にもとづく3つの柱「新規農産物や郷土農産物栽培の推進」、「農産加工品の開発検討」、「農産物等のイベント活用やPRの推進」にそって、取り組みを検討・実施した。予定していた取り組みの全てを実施できたわけではなく、「明治大学黒川農場の見学会」や「大学と農家の意見交換会」など、やりやすそうな取り組みを実施していなかったという反省点がある。実施に至らなかった背景には、やはり大学と地元との距離がまだあるのではないかと思う。

「農-4 黒川農場アグリサイエンスアカデミー（市民講座）への地元農業者の講師派遣」では、地元農業者に講師を依頼して、加工品を中心とした講義と実習を実施した。講師の方のお話が非常に上手で、地元のいろいろなご紹介もしていただいた。アグリサイエンスアカデミーの受講生の傾向だが、年々地元の受講者が増えてきた。今までは遠く（市外）に住んでいる方が受講していたが、少しずつ地元（川崎市内）の方の比率が大きくなってきた。これもPRの効果につながっているのではないかと思う。受講生は50人参加していたが、その他にアグリサイエンスアカデミーを手伝ってくれているボランティアの地元の方が10人程度いるのだが、その地元の方たちも講師のお話を聞きながら、こんなに農業が盛んなのかと感心していたので、こういう取り組みは良かったと思う。

次年度以降は、今年度実施できなかった部分についても積極的に取り組んでいきたい。

②地域活性化専門部会

- ・今年度の取り組みは、事務局の説明にもあるが、非常に盛りだくさんだった。基本的には地元のPRとして、地元にとどのようなものがあるのかわかりやすくするため、サイン計画をして試行的に設置した。もう1つは体験していただくということで、黒川農場の畑の野菜や市が管理しているブルーベリー、観光農園のさつまいもなどの収穫体験を実施した。さらに、新たな魅力づくりとして、近郊大学にご協力を得ながら里山アート展を実施した。今年度はそのように多様な活動を実施することができた。

次年度以降もこのような多様な活動を発展させていくことを考えている。

③里地里山保全利活用専門部会

- ・里地里山保全利活用専門部会では、今年度2つの取り組みを実施した。2つとも、参加者には非常に好評だった。

今年度の取り組み（特に里山保全活動体験）は、里山に目を向けてもらうという意味のPR効果はあると思うが、参加者の安全確保のこともあり、あまり広げられなかったため、今後はPRとしてだけでなく、もう少し踏み込んだ取り組みを検討していく余地がある。

また、イベントとして里山の保全管理を実施したが、もともと里山というのは農家が利用して管理してきた場所なので、単なるイベントにするだけではなく、もう少し農家の生活や商売などにつなげるような方向性を検討していく必要があるのではないかと思う。単なる必要性としてだけでなく、もう少し実のある取り組みにできれば、地元としての取り組みも実施しやすくなるのではないか。

どこでも里山というのは、残っているところではもてあまし、消滅した場所では憧れのものとなっている。その中で、黒川地域が1つのモデルを提示できるように目指して取り組んでいければ良いと思う。

《協議会委員の主な意見》

- ・竹行燈づくりに関してだが、今回の取り組みは非常にすばらしかったと思う。地元で「竹行燈づくりの会」が発足したので、そこへ町会と神社からわずかだが補助金を出すことが決まった。今後も継続して取り組んでいくのであれば金額も増やして担い手を育成していきたいと思う。
- ・地元の小学生や大学生をターゲットにして取り組みを実施したことは評価できる。竹行燈づくりのイベント参加者数が少ないと感じる。募集人数を絞った理由を教えてください。
- ・今年度が初めての試みだったため、竹行燈づくりを指導できる人も少なく、道具の数も限られており、参加者の人数をある程度絞る必要があった。今後は竹行燈づくりを指導できる人も増えると思うので、参加者の子供たちも増やすことができると思う。（事務局）
- ・里山保全活動についてだが、イベント的にササ刈りや下草刈りをするだけではなく、その里山を適正に管理し、落ち葉を堆肥として利活用できれば、地元の農家にも役立つと思う。

(2) 実施計画書及び次年度の取り組みについて

《主な意見》

①次年度の取り組みについて

- ・現在は、3つの専門部会に分かれて実施しているが、横のつながりを持たせたプロジェクトを実施すると、本当の里山の体験ができるのではないかと思うので、平成28年度はそういうことを少し検討してほしい。
- ・他の部会との連携が必要な取り組みなどがあれば、事務局になげかけていただいて、検討していくことから始めていきたい。平成28年度は今のご意見を念頭に入れて取り組んでいきたい。
- ・地域活性化検討専門部会の取り組みに炭焼き体験・シンポジウムというものがある。これは区と大学だけではなく、NPO法人を入れて少し大規模なものを考えている。シンポジウムと同時に炭焼きの実演を行う。この炭焼きは竹炭に限定しているが、竹は里山の管理でも非常に大きな問題になっている。これは川崎市だけではなく、県域全域に広がっているので、県のご協力も得ながら、内容としても他の部会にまたがるような幅広いカタチで取り組んでみたいと考えている。
- ・せっかく3部会あるので何か少し接点を持って取り組んでいければと思う。

②実施計画書について

- ・昨年度、環境省の取り組みの1つとして、全国の里地里山500選（「生物多様性保全上重要な里地里山」）の中に、川崎市では黒川地域と生田緑地が認定された。実施計画書の「はじめに」に、そういう経緯で国からも大きな位置づけをされているということを加えてほしい。
- ・もう1点、実施計画書の「3. 推進体制」の「支える組織」の中に「黒川地域連携協議会」があり、その下に各専門部会の取り組みが記載されている。「黒川緑地管理協議会」や「黒川観光農業振興会」など、地域の任意団体等いろいろな主体があるから、行政が緑地保全の施策をできている。そのため、どこかに、黒川地域に関連する地域団体を記載し、整理してほしい。
- ・この実施計画書にもとづいて、次年度取り組みを実施していくということで認めていただきたい。

〈全員承認〉

5 総 括：

- ・次年度の協議会は全2回を予定しており、実働部隊の専門部会を中心に動いていく。今後も新しい取り組みを含めてもっと活発に黒川地域を盛り上げながら進めていきたいと思う。
- ・明治大学黒川農場に関しては、三谷先生が3月31日で任期が満了し、4月1日から新たに加工品専門の先生が赴任する。地元の女性農業者との加工品に関する接点が増えるのではないかと期待がある。そのへんが次年度はだいぶ変わると思う。

以上